

平成 26 年度弘前大学グローバル人材育成事業モデル事業

学 生 市 民 等 協 働 プ ロ グ ラ ム 報 告 書

申 請 者	所属部局・職名	農学生命科学部・准教授
	氏 名	石塚 哉史
事 業 名	食と農のグローバル人材育成プログラム —弘前市産農産物・食品の対台湾輸出ビジネス県集—	
事業の概要とその成果		
<p>本プログラムは、我が国において食と農のグローバル化の進展が拓がりつつある中、国際競争力の強化が叫ばれている。これらの事象を本学が立地する青森県や弘前市において鑑みると、農業や食品産業が地域産業の基軸となっており、今後の地域産業の浮沈には、地域特産物の存在意義や付加価値を認識し、国際的な流通に対応可能な人材の育成、配置の必要性が高まっている。</p> <p>上述のことから、本事業では、りんごの最大輸出相手国・地域である台湾を対象としたフィールドワーク(2015年2月25日～3月2日)を中心に地域特産物の国際化対応の現段階と課題について理解を深め、今後の地域産業の展開に貢献できる人材育成につながる取り組みを行った。</p> <p>本事業における主な取り組み内容は、下記の通りである。</p> <p>第1は、台湾でのフィールドワークを行う以前に、協力企業であるみちのく銀行(市場国際管理部)から、台湾ビジネスに係る講義を受け、現地情報、商習慣、日本および青森県との貿易状況、について学習した。</p> <p>第2は、台湾に立地する大学において、参加学生・院生が青森県産農産物・食品のプロモーションを目的とした資料作成およびプレゼンを実施した。それに加えて、県等が発行する観光や農産物を紹介するパンフレット・リーフレットの配付を行った(健行科技大学)。</p> <p>第3は、前述のプレゼンを実施した際の参加者(大学関係者、一般市民)を対象とした青森県産農産物・食品、とりわけ弘前市産りんごに焦点をあてた消費動向・購買意識に係るアンケート調査(回答数:50人)を実施し、その結果を分析した。</p> <p>第4は、前述第1～第3の内容を取り纏めた、報告書作成に取り組んでいるところである(台湾でのフィールドワークが遅れたため、現在作成中)。</p> <p>参加メンバー 教員2名, 学部学生7名, 大学院生1名, 市民等1名</p> <ul style="list-style-type: none">・石塚 哉史 農学生命科学部 准教授・田中 紀充 農学生命科学部 助教 (教員経費)・みちのく銀行 1名・農学生命科学研究科1年 1名・農学生命科学部3年 3名・農学生命科学部2年 4名		

本事業を実施した成果として、地域課題を理解し、その解決に関心を持ち、関連する業種への就職、または国際的な活動を志す学生・院生が醸成される基盤構築に一定程度は貢献したと認識している。実際、本事業に参加した学生の1人は今年3月から本学の姉妹校への留学に参加したのも存在している。また、参加した学部生・院生は農産物貿易に従事している企業への就職を希望している者も存在しており、今後の展開が期待される。